

現地を訪問して想うこと

ツアー参加者氏名 : 丹羽 由里
卒業年 : 1986年 卒業学部 : 産業社会学部
【参加コース】 A 岩手コース

2011年3月11日は息子の中学校卒業式の日でもあったので忘れもしません。夕方のテレビ画面の光景は現実のものとは思えず、驚愕に言葉も出ませんでした。被災地では、突然に大変な困難に直面させられた多くのご家庭があります。うちと同じように卒業式を迎え、新しい進路に胸を膨らませていたご家族も多くいらしたことでしょう。一瞬にして運命が変わってしまったこの理不尽さ。

陸前高田には空き地が広がっており、大きな盛土がいくつも積み重なっていました。かつては住宅や商店街や駅があったということですが、想像のできない光景でした。海からかなり離れたところまで延々と何も無く、津波が洗いざらい持って行ってしまったのかと思うと、恐ろしさに愕然とします。語り部のコハルさんは今年は泣かずに話せました、と言われました。昨年までは語りながらいつも泣いていました、と。釜石の語り部・静子さんのお話には、復興への力強さを感じました。遠野ボランティアセンターでは、新しい事業の立ち上げなど、前へ進む取組みを紹介していただきました。起きた未曾有の事実は消せませんが、時間は確実に流れているのだと感じました。

大槌町の「三陸花ホテルはまぎく」さんに到着し、引き続きの勉強会で、校友の鈴木先輩から被災状況下での貴重なお話をいただきました。困難のなかで活躍された先輩を誇りに思いました。

その後の懇親会は珍しい山葡萄酒での乾杯で始まり、初対面だった全国から集まってこられた校友の皆さまとも徐々に打ち解けて、楽しい時間を過ごさせていただきました。女子部屋では、年齢の壁を越えて、女子旅の態で楽しんでおりました。お部屋やお風呂からは、すぐそばに波が打ち寄せる雄大な三陸海岸を見渡すことができ、早朝の露天風呂からは美しい朝焼けを見ることができました。自然のすばらしさを身近に感じられるお宿ですが、津波では大きな被害があったとのこと、当時の困難はいかばかりであったかと胸が痛みます。

2日目は憧れの中尊寺金色堂に連れて行っていただきました。緑深い杉木立の奥に燦然と輝く黄金があり、圧倒されました。さすが世界遺産、感動いたしました。ガイドさんのお話を聞きながら、校友の皆さまと散策を楽しむことができました。

旅を終えて宇治の自宅に戻り、いつものように私は自転車で宇治川沿いを走り回っています。普段はゆったりと雄大な流れに心癒される宇治川ですが、昨年と一昨年の夏の豪雨では支流が決壊し、町内は冠水しました。うちも車が浸かって廃車となりました。以来大雨が降るたびに不安で右往左往しますが、だからといって住まいを変えられるかというと、そんなに簡単にはいきません。東北の、自宅に戻れないたくさんのご家族の困難はいかばかりかとお察しいたします。

自然災害はいまも容赦なく私たちを襲い続けています。

災害を研究している知人によると、日本の国土の構造上、私たちは災害を完全に避けることはできず、ある意味共存していくほかはないのだそうです。

身を守ることを常に意識して生活しなければならないのだと思いました。

岩手の旅は初めてでしたが校友の皆さまのおかげで貴重で有意義な時間をいただきました。

視察では辛い気持ちになることもありましたが、バスの中での校友会の先輩方のお心遣いの差し入れに癒されました。

「東北応援ツアー」とはおこがましい、こちらの方がパワーをいただきました。

全国で活躍されておられる校友の皆様を誇りに思い、また、心強く感じております。

ありがとうございました。